

より安全で効率的な人とモノの流れを実現する 日本ならではのデジタルライフライン

1. 目的

都市部から地方まで、人/モノ/サービスの流れを再構築し、デジタル時代の新地域生活圏を実現

－「自動運転支援道」から、モビリティ変革による生活圏再構築にスコープを拡張

2. アプローチ

1) 自動運転技術・インフラを整備するだけでなく、人/モノ/サービスの流れを安全、効率的にする手段を包括的に考える

2) L4単独技術進化を進める欧米中に対し、日本ならではの自動運転普及策を構築

3) 総合的な自動運転支援の枠組みの中で、様々な技術を進化、実用化する「道場」とする

3. 具体的取り組み内容

ハード(インフラ/車両)、ソフト(システム/データ)、ルール(社会受容性) 三位一体となり、以下に取り組み

【1階】より安全な交通を実現するシステム/データ基盤

- 通信型信号機/スマートポール等の安全サポートインフラ
- 次世代ITS通信のための周波数帯整備

【2階】より効率的な人/モノ/サービスの流れを実現するシステム/データ基盤

- 協調輸送/混載/ドライバーシェア等を可能にするインフラ、基幹道路に直結するデジタルクロスドッグ
- 新地域生活圏の物理制約を取り除く新ライフライン（デジタル公民館、医療/行政MaaS等）

【3階】様々なレベルの自動運転車の普及を促進するためのインフラ/仕組み

- 自動運転車のための統合管制/支援システム、難易度の高い合流支援 等
- 社会が自動運転を受け入れるルール/土壌づくり（ヒヤリ/事故情報の社会共有、方向性議論 等）

より安全で効率的な人とモノの流れを実現する 日本ならではのデジタルライフライン

都市部から地方まで、人/モノ/サービスの流れを再構築し、デジタル時代の新地域生活圏を実現

より安全な交通

より効率的な物流

生活の制約を取り除く

様々なレベルの自動運転車両



L3単独



L3+ 隊列

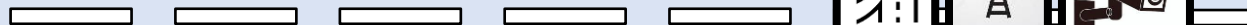


L4 (有人)



L4 (無人)

3階：自動運転支援道



様々なレベルの自動運転車普及を促進するインフラ/仕組み

統合管制・支援システム、合流支援 / 社会が自動運転を受け入れるルール・土壌づくり

デジタル
クロスドック

デジタル
クロスドック

2階：効率

より効率的な人/モノ/サービスの流れを実現するシステム/データ基盤

協調輸送・混載・ドライバーシェアを可能にするインフラ、デジタルクロスドック / 新地域生活圏の物理制約を取り除く新ライフライン

1階：安全

より安全な交通を実現するシステム/データ基盤

通信型信号機・スマートポール等の安全サポートインフラ / 次世代ITS通信のための周波数帯整備